オーディオ実験室収載

ZANDEN Model 120 の活用(3)
－Model 120 設定条件の試聴(3)－

１．始めに

前報(2)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。今回は、harmonia mundi 盤を選定しました。

２．Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス／バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)) →BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、下記の harmonia mundi 盤を選んで聴いていきます。

harmonia mundi ULS-3121-H（テイチク）

C.F.ヘンデル：合奏協奏曲 7 番 9 番 10 番 12 番
コレギウムアウレウム合奏団

harmonia mundi ULS-3042-H（テイチク）

J.S.バッハ：ブランデンブルグ協奏曲 2 番 3 番 5 番
コレギウムアウレウム合奏団

harmonia mundi KUX-3012-H（テイチク）

J.S.バッハ：管弦楽組曲 2 番 3 番
コレギウムアウレウム合奏団

harmonia mundi VIC-20079（France）

ラ・フォリア
グレゴリオ・パニアグワ指揮アトリウム・ムジケー古楽合奏団

harmonia mundi VIC-28107（France）

古楽幻想「アラブ＝アンダルシアの音楽」

グレゴリオ・パニアグワ指揮アトリウム・ムジケー古楽合奏団

harmonia mundi KUX-3248-H（Deutche）

ミトマニア　ベーレン・ゲスリン

harmonia mundi HMM 332292（EU）

モーツアルト：レクイエム

ペーター・バルチ指揮フライブルグバロックオーケストラ

３．Model 120 設定条件の試聴結果

試聴は、harmonia mundi はすべて正相のようなので、RIAA の正相からスタートして、ZANDEN のリストを参考に切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第 4 時定数も決めていきます。

ヘンデルの合奏協奏曲は、テイチク製で、RIAA の正相より、ZANDEN のリストのとおり EMI の正相の方で音の芯がしっかり出ており、バランスが取れています。第 4 時定数は High で良さそうです。

バッハのブランデンブルグ協奏曲は、テイチク製で、これもヘンデルの合奏協奏曲と同様で、EMI の方が、通奏低音も明瞭です。

バッハの管弦楽組曲は、テイチク製で、これもヘンデルの合奏協奏曲およびとブランデンブルグ協奏曲と同様です。

ラ・フォリアは、harmonia mundi France との記載があり、RIAA の正相でもいいのですが、TELDEC にすると音の立ち上がりが、よりシャープになり、古楽器のニュアンスも豊かにでています。第 4 時定数は High で良さそうです。ZANDEN のリストでは、RIAA の正相で第 4 時定数は Mid を推奨していますので、違いがでました。Grrad401 による確認では、位相反転させない方が、音像がしっかり立っています。

アラブ＝アンダルシアの音楽は、harmonia mundi France との記載があり、特殊な音楽ジャンルの聴きなれない楽器の演奏ですが、音の切れ味などから判断するとラ・フォリアと同様と判断して良さそうです。

ミトマニアは、harmonia mundi Deutche との記載があり、ディジタル録音で RIAA の正相でも非常に明晰な音がします。ZANDEN のリストの TELDEC の正相では、いっそうボーカルに張りがでてきますが、もともと明晰な音がしますので、RIAA でも良いかもしれません。TELDEC、RIAA ともに第 4 時定数を High から Mid にしますと響きが豊かになってきます。

モーツアルトのレクイエムは、2017 年発売最近の録音で、harmonia mundi made in EU との記載がありますが、製造箇所を見るとフランス語のようです。最近の録音のようですので、RIAA の正相、第 4 時定数を High でスタートさせましたが、これで

問題ないと感じられ、合奏、合唱、ソリストのバランスや音の分離と協和も十分です。条件を替えてもよりよい方向に変わる傾向はみられません。
全体を振り返ってみますと、テイチク製は、France 盤や Deutche 盤より、音質は後退し、France 盤は、音質的に長岡 A 級外盤に指定されただけの意味が分かります。
EU 盤は、最新の録音で、RIAA の正相で十分真価を発揮できるようです。

４．まとめ。

同じ harmonia mundi でも、位相は正相でよさそうですが、イコライザーカーブは盤の製造箇所によって違う設定をした方が良さそうです。harmonia mundi は、以前から鳴らしやすいレーベルと感じていましたが、その理由は位相が正相であるためだったようです、

以上